

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

ペタネットへ向けた国家戦略 経済戦略会議が最終答申を発表

「通信容量をペタ(メガの10億倍)レベルに拡大し、ビット当たりの通信コストを1万分の1程度まで削減する」... 小淵政権のインターネット戦略の目標が明らかにされた。総理直属の経済戦略会議(樋口廣太郎議長)が、2月26日、「日本経済再生への戦略」と題した答申(以下「答申」)をまとめた。

編集部

国家戦略としてのインターネット

答申は「インターネットを中心とした戦略的情報インフラ整備」を最重点プロジェクトの1つに掲げ、電気通信規制改革、道路、河川、下水道を活用した国土情報スーパーハイウェイの整備、地域ペタネットモデルプロジェクトの実施、太平洋ペタネットの構築、CATVインターネット、インターネットマンションへの支援、xDSLのための通信業者の設備開放など数々の提言を打ち出した。答申は直ちに閣議報告され、小淵総理は各省に政策の具体化を指示した。

「21世紀の情報化は、インターネット中心に展開していくと考えられる。インターネットは行政・企業などさまざまな情報公開を促進し、地域、個人と世界との時間距離の解消に役立つものであり、開かれた社会の構築、個人、地域の発展にとって重要な役割を担っていくものである。このため、国家戦略としてその高度化に重点を置いた政策

を展開する」。答申の情報政策部分は、このような記述で始まる。

経済戦略会議は小淵総理により昨年8月に設立され、従来の枠組みにとらわれない数々の提言を行ってきた。情報分野では、村井純慶応大教授、公文俊平グローバルコミュニケーション・センター所長など、インターネット関係者中心にヒアリングを行い、これまでの政府の審議会と一線を画してきた。

経済戦略会議がここまでインターネットを重視したのは、インターネットこそが今後の高度情報化社会を左右する重要な鍵であるとの認識による。

インターネットはこの1~2年のうちに、容量の大幅な拡大、認証技術の発達などにより、単なるTCP/IPネットワークの領域を超え、およそデジタル化された情報であれば何でも輸送・伝達する「人類共有の媒体」になっていくと考えられている。米国の基幹回線は、すでに電話中心からIP(インターネ

ットプロトコル)中心に移行し、その容量も従来1年を要していたものが、2~3か月ペースで倍増している。インターネットでの株取引も全取引の3割を超え、インターネットは第二ステージに突入したと言えるだろう。

第二ステージの中心技術は光通信であり、情報家電であり、ITS(次世代道路交通システム)である。これらは日本のお家芸とも言える分野であり、ここで米国に席巻されることは、日本の産業にとって大きなダメージとなる。逆に、お家芸なればこそ、日本がこの分野では世界のリーダーになれる可能性がある。そのためには、国家的観点に立った戦略が必要だ。

また、インターネットは分散システムとしての性格を持つ一方で、一極集中的な性格も有している。たとえば、米国がハブとなっていることから、日米間の回線費用は日本が一方向的に負担しており、これがユーザーの利用コストに転嫁され、コスト格差を拡大させている。ヨーロッパでもインターネットの基幹回線のほとんどが米国企業の支配下に置かれ、欧州内のトラフィックも米国経由で処理されるなど、世界規模で米国一極集中化が進んでいる。

答申は人類の財産としてのインターネットの有効性を評価しつつ、日本がその効用を最大限に活用できるためには、国家戦略の確立が必要であるとしている。

キーワードは「ベタ」

このような中、答申は当面の政策目標を、容量をベタレベルに拡大し、ビット当たりの通信コストを1万分の1程度に削減することに置いている。

インターネットを開花させるには、超高速、超低廉な通信環境をそこかしこで実現する必要がある。日本がインターネットで大きく立ち遅れた最大の原因は、通信の低速性とコストの高さにほかならない。このため、答申ではインターネット関連の電気通信分野への新規参入を加速させるとともに、地域、政府、太平洋でベタレベルのネットワークをモデル的に構築すべきだとしている。

たとえば、全マンションがインターネット対応のLANを設置すれば、町内会にはFDDIのようなネットワークが必要となる。町内会がFDDIならば、それをループする地域ネットワークは、ギガやテラが必要だ。そして、都道府県のレベルではベタのネットワークが必要となるだろう。

インターネットに適合した電気通信ルールの確立

答申では、これを産学官協力してモデル事業として実現すべきだとしているが、その前提として、「中小・ベンチャー企業を含め、多様な主体が自由に光ファイバーを保有、譲渡、転貸できるようにする必要がある」としている。

これまで、光ファイバーなどの伝送路は、NTTなどの巨大な資本に裏打ちされた第一種電気通信事業者に厳しく限定されてきた。電話の場合は端末の種類も限定され、救急通話なども想定しなければならないことから、新技術の導入や通信サービスの多様性を犠牲にしても、参入を厳しく制限し、代わりに通信の技術的責任を事業者一方に負わせる方式とすることに一定の合理性があった。

しかし、インターネットでは利用者によって端末がさまざまにカスタマイズされ、事業者だけに技術的責任を負わずことはそもそも不可能となっている。また、インターネットでは、新技術が次々と市場に投入され、それに見合ったコスト削減が図られることが何

インターネット・ニュースの見方

よりも重要だ。パソコンの性能当たりの値段が急速に低下していくのと同様に、インターネットも、xDSLやDWDMなどの技術革新の成果が速やかに市場に投入されてコストの低下が進む必要がある。

したがって、インターネットでは、電話のような参入規制を採るべきでなく、むしろ自由と多様性を重視し、新技術の導入を加速させ、サービス競争を活発にさせることで、技術革新に応じたコスト削減が進むようにする必要がある。また、同時に消費者保護についても、電話のように事業者だけに技術的責任を負わせる方式から、通信品質についての情報開示を図り、消費者もある程度の責任を負いながら、多様なサービスメニューの中からコストに応じてサービスを選択できる方式に改めなければならない。

この場合、特に重要なことは、中小・ベンチャー企業の活用である。パソコンの世界でも明らかのように、中小・ベンチャーの自由な参入なしに革新的技術の導入は活発にはならない。

これまで、中小・ベンチャーが伝送路を保有することは技術的にもコスト的にも不可能だったが、今日、光波長分割多重技術などにより、中小企業でも高速な伝送路を保有できるようになってきている。

利用面でも、伝送路サービスを含めたシステム構築やコンテンツ提供が求められ、今後、中小・ベンチャー企業も光ファイバーを保有しなければならない場面に直面することが多くなっていくと考えられる。

このようなことから、答申ではインターネットの電気通信規制の緩和による自由な活動を促進すべきであるとし、第一種、第二種電気通信事業者の区分の廃止、許可、登録、事前届出制となっている現行制度について、原則として事後届出制への変更、個別料金割引の自由化などを提言している。

道路、河川、下水道を活用した国土情報スーパーハイウェイの構築

しかし、これだけでは、中小・ベンチャーによる光ファイバービジネスの展開は望めない。なぜなら、現状では光ファイバーを敷設する空間の確保に膨大な資金が必要となるからだ。

そこで答申では、道路、河川、下水道といった公共施設整備を活用した国土情報スーパーハイウェイの構築が不可欠だとしている。

具体的には、道路、河川、下水道などの社会資本と光ファイバーとの一体整備事業を促進し、これらを有機的に結びととも、通信事業者の機材を収めるハイジングボックスを一定間隔で整備することで、ネットワーク設置のための時間・コストを大幅に縮減させるべきだとしている。

さらに、中小企業でも光ファイバーが持てるよう、民間利用を前提に公的主体が光ファイバーを先行整備し、国土全体を高速IPネットワークで結ぶべきだとしている。

すでに昨年景気対策で、小渕首相の指示により、情報BOX（道路の下にBOXを埋め込み、光ファイバーを敷設するもの）の総延長が1000kmから一挙に11000kmに拡大され、その後も急ピッチで全国的に整備されることとなっている。現在、情報BOXの利用は第一種電気通信事業者とCATV事業者などに限定されているが、これが中小・ベンチャーでも利用できるようになれば、新規参入が相当に加速すると考えられる。

具体化には世論の高まりが不可欠

さらに、答申はCATVインターネット、インターネットマンションなどへの支援、xDSLのための通信事業者の設備開放、全国的セクターをベタネットで結ぶ強力な電子政府の構築などのさまざまな提言を行っている。

問題は、この答申がどのようなステップで実現されていくかだ。そのためには、国民世論の高まりが不可欠だろう。

経済戦略会議
URL <http://www.kantei.go.jp/jp/senryaku/>

今まさにLinuxの時代がきた

LinuxWorld Conference & Expo開催

3月1日(月)から3月4日(木)までの4日間、米国カリフォルニア州のサンノゼ・コンベンションセンターにおいて、「LinuxWorld Conference & Expo」が開催された。サンノゼは、コンピュータ関係の会社が多いシリコンバレー地区の一部でもあり、第1回のイベントにもかかわらず多くの参加者を集めていた。主催者のIDG WorldExpoの発表によると、参加者数は12000人(うち報道関係者が400人)と、かなり注目を集めたイベントとなった。

井上尚司



Corel CorporationのCEO兼プレジデント、Dr. Michael Cowpland氏

新たなLinux対応製品を紹介したキーノート

3月1日はチュートリアルのみ行われたので、実質的な開会はお月2日となった。この日のオープニングは、Linux InternationalのエグゼグティブディレクターであるJon "Maddog" Hall氏による、「今まさにLinuxの時代がきた」という言葉で始まった。

最初のキーノートは、CorelのCEO兼プレジデントであるDr. Michael Cowpland氏で、彼は「Linuxにとって1998年まではOSの年だったが、今年1999年はアプリケーションの年だ」と始めた。

Corelでは今春発売の「Word Perfect Office 2000」をLinuxに移植すると発表し、これにはLinux上でウィンドウズアプリケーションの稼働を可能にするエミュレーション環境である「WINE」も利用する。実際にQuattro Proを使ったデモを披露したが、見た限りではなんの問題もなく動作していた。

なお、同社ではこの秋には「Corel Desk-



キーノートに登壇したLinuxの作者、Linus Torvalds氏

top Linux」というLinuxシステム自体を含めたパッケージを売り出す。

2番目のキーノートは、Oracleのシニア・バイスプレジデントであるMark Jarvis氏。最初からマイクロソフトへの対抗心を表して始まり、それが最後まで続いた。「オラクルを採用しているアマゾンコムは成功したが、マイクロソフトを採用したパ・ンズ・アンド・ノーブルはシステムダウンにともなうデータリカバリーができなかった」といったマイクロソフト批判もあったが、内容としては、同社の新製品であるOracle 8iのLinux対応を表明したにすぎなかった。

Linuxの作者も登場

前の2つのキーノートとは時間を置いて、同日の夕方から3つ目のキーノートが行われた。開演数十分前には会場入り口に長蛇の列ができるほどの盛況ぶり。それもそのはずで、壇上に立つのはLinuxの作者として有名なLinus Torvalds氏。結局このキーノートには、主催者発表で6000人以上の参加者があったとのことだ。

VA ResearchのプレジデントであるLarry Augustin氏に紹介されてLinus氏が壇上に出てくると、場内総立ちで拍手が贈られるといった、一種異様な雰囲気が始まった。ただ、どう見てもLinus氏はこの状況を好んでいるとは思えず、逆に嫌んでいるかのようだった。

出てきただけでスタンディングオベーションを受けるのは、Linus氏とアップル・コン

ピュータのスティーブ・ジョブズ氏ぐらいのものだろうと、報道者席に座っている1人がつぶやいたのが印象的だった。

Linus氏はあくまでマイペースで「Linuxの過去、現在、未来」と題した講演を進め、これまでの歴史を振り返りながらLinuxコミュニティへの謝意を述べ、今後也有着実に歩んで行こうとの話をした。

また今後の目標として、マルチプロセッサなどへのアップスケール方向への対応強化も当然必要だが、デスクトップ環境の整備やビジネスアプリケーションの対応などのダウンスケール方向への対応も必要だとの見解をあらためて示した。

講演の最後に、IDG/Linus Torvalds Community Awardの発表と賞金の授与が行われた。受賞したのはニューヨークの高校にLinuxを使ったネットワーク環境の導入を行っているThe LXNY Schools and Libraries Projectと、Linuxの高速化を研究しているStampede Foundationというグループの計2グループだった。

キーノートに引き続き、IDG World ExpoとLinuxCare社の主催によるパーティーが行われた。展示会だけの参加者も含めて全員が参加可能とあって、多くの人が詰め掛けた。

Linus氏は3月3日の夕方に行われたパネルディスカッションにも急遽参加することになり、当日はEric S. Raymond氏のコーディネートのもと、Linus氏のほかにFSFのRichard Stallman氏、Guido Van Rossum氏、Perlで有名なLarry Wall氏の4人のパネ

リストが壇上に上がり、約2000人の聴衆とともに「9か月後は？」という話で盛り上がった。

あくまでもフリーソフトをというRichard氏の意見には誰しもがもっともだと納得しつつも、理想と現実の違いもあるわけで、そこから辺りの擦り合わせが課題だと感じさせた。Linus氏はRichard氏の意見に賛成しつつも、マイペースさは失わずにいた。

製品に触れられる恰好の展示会場

一方、展示会は2日から4日までの3日間開催された。出展社数は100を超えたが、会場自体はそれほど大きいというものではなかった。展示ブース間の通路も、縦に7本、横に5本程度で、端から端まで見渡せる程度である。大きなブースを構えているのは、IBM、コンパック、サンなどのハードウェア会社や、Corel、オラクル、Red Hat、Calderaなどのソフトウェア会社で、コバルトを含めほとんどの会社が基本単位のブースだった。

残念ながら展示会で特に目を引く製品や技術というものはなく、いずれもすでに発表されていたものだった。ただ、それほど大きくない展示会のため、出展者と話がしやすい雰囲気があり、参加者は気軽に技術的な質問ができた。

展示会からいくつか紹介しておく。

まずはパシフィック・ハイテックの「Turbo Linux Cluster Web Server」。ユーザーからのリクエストを複数のサーバーに振り分けるもので、受けたリクエストを負荷分散してルーティングするホストと、それを受ける複数のサーバーから構成され、その間にIPのトンネリングを用いている。会場では、計10台のホストによるクラスターが組まれていて、



パシフィック・ハイテックの「TurboLinux Cluster Web Server」

インターネット・ニュースの見方

実際に稼動していた。

いくつかのブースでは、GNUの「GNOME」のデモが行われていた。GNOMEはGNU Network Object Model Environmentの略で、GNU/Linuxシステム上で稼動する統合デスクトップ環境のことだ。また、会期中の3日に、FSFのRichard氏自身が報道記者会見に顔を出して、このGNOMEの1.0をリリースすることを発表した。

Red Hatのブースでは、ベータ版ではあるがGNOMEを入れたRed HatのCD-ROMを配布していた。

このほか、複数のブースでのデモが行われていたネットスケープのサーバー製品、いくつかのOffice Suite製品のデモ、PowerPC上でのTurboLinuxのデモなどがあった。

また、FreeBSDもブースを出していたのが印象的だった。

インターネット関連の注目製品は？

会場ではFSFのGNOME以外にも報道記者会見がいくつか開かれた。

その1つがIBMで、2日に行われた会見において、Caldera、パシフィック・ハイテック、Red Hat、SuSEなどの複数のLinuxに対応していくことを発表した。

インテルと、その出資を受けるVA Researchは、LinuxをインテルのIA-64アーキテクチャーに移植することで合意したことを報道記者会見で発表。

またVA Researchは、DecisionOneとともに年中無休のサポートサービスを開始すること、「linux.com」のドメインの所有権を獲得したことも発表した。linux.comは、あくまでも「Community Portal」サイトとして利用し、その運営にはLinux Advisory boardの意見をもとにすること。

ここまで読むとわかるように、今回のLinuxWorld Conference & Expoでは、イ



IDG/Linus Torvalds Community Awardを受賞した、The LXNY Schools and Libraries ProjectのJay Sultzberger氏

ンターネットとして特に注目する製品の発表はなかった。

しかし、Linuxがインターネット/イントラネットのサーバーとしての地位を広げていく可能性は高く、今後はサーバーソフトウェアの新たな製品群も発表されるはずだ。

LinuxWorld Conference & Expoは今年2回の開催が予定されていて、次回は同じサンノゼ・コンベンションセンターで8月9日から12日まで、さらにその次はワシントンD.C.のコンベンションセンターで2000年1月10日から13日まで開催されることになっている。編集部では次回以降もこの展示会を追っていく予定である。



Linuxの展示会にFreeBSDのブースが！！



GNUの総合デスクトップ環境「GNOME」

スティーブ・ジョブズ氏がついに来日 MACWORLD Expo/Tokyo '99 開催

今年で9回目を数えるマッキントッシュ関連の展示会「MACWORLD Expo/Tokyo '99」が2月18日から20日まで、日本コンベンションセンター(千葉・幕張)で開催された。今回は、米アップルコンピュータ暫定CEO(最高経営責任者)スティーブ・ジョブズ氏が基調講演を行うということもあり、例年以上の盛り上がりを見せていた。

編集部



米アップルコンピュータ暫定CEO
(最高経営責任者)スティーブ・ジョブズ氏

「MacOS X Server 日本語版」 は4月に発売

約6500人の参加者を集めたスティーブ・ジョブズ氏の基調講演の内容は、1月5日にサンフランシスコで開催されたMACWORLD Expoでの基調講演の内容を日本向けにアレンジしたもので、新しいPowerMacintosh G3、5色のiMac、MacOS X Serverなどの話題を中心に進められた。

日本向けの新たな発表としては、「MacOS X Server 日本語版」(128,000円)を4月に発売する、アップルが運営するオンラインストア「Apple Store」(<http://www.apple.com/japanstore/>)を2月18日からオープンする、プレイステーション用のゲームをマックで動作させる「Virtual Game Station」の日本語版が夏から秋の初めにリリースする予定という3つのアナウンスがあった。

MacOS X Serverは、OSにMachカーネルをベースにしたBSD 4.4 OSを採用し、Apache(WWWサーバー) NetBoot(Mac OS X Serverのハードディスクにあるクライアントマシン用のシステムでネットワーク上のクライアントマシンを起動させる機能) ファイルサーバー、Java、WebObjects 4(ネットワークアプリケーションの開発・運用ソフト)などを搭載したアップルの新しいサーバーOSだ。ジョブズ氏は「クライアントが何台でも999ドルだ」と述べ、マイクロソフトのウィンドウズNTサーバーのようなクライアント数により価格が異なる製品との違いを強調した。

基調講演の最後には、ハードディスクを取り除いた50台のiMacをNetBootで起動し、MacOS X Server上のQuickTimeムービーを同時に再生させるというデモが行われた。残念ながらこのデモは失敗に終わったが、実際の機能は50台が限界ではなく、同時に1000台以上のクライアントが接続でき、数千のファイルにアクセスすることが可能だとしている。

なお、3月16日に米アップルコンピュータはMac OS X Serverの基本部分をオープンソース化した「Darwin」を発表するとともに、Mac OS X Serverを499ドルで発売すると発表した。日本国内での価格について現時点では発表されていないが、近々、何らかの発表があると思われる。

USB対応、FireWire対応製品が 続々登場

展示会場では、USB関連の製品とFire

Wire(IEEE1394)関連の製品が参考出品も含めて各社から発表されていた。

まず、国内最大のシェアを持つNECのTA「AtermITシリーズ」がMacとPower Macintosh G3への対応を表明し、実際に動作する製品のデモも行った。対応するのはAtermIT 75シリーズとAtermIT 60/Dで、ドライバーはAterm Station([http:// aterm.cplaza.ne.jp/](http://aterm.cplaza.ne.jp/))から入手できる。

六桜商事からは、ドイツのHERMSTEDTのUSB対応TA「Hermstedt Web Shuttle」が出展されていた。マウスを少し大きくしたような形とスケルトンのデザインが印象的な製品だ。

FireWire対応製品で最も注目されていたのは、松下電器産業のDVD-RAMドライブ。発売時期と価格は未定だ。

このほかにも、iMacに合わせた5色のサイドカバーが付属するヤノ電器のUSB対応MOドライブやロジテックのUSB対応MOドライ



5色のiMacの周りには、いつも人だかりができています



六桜商事のUSB対応TA「Hermstedt Web Shuttle」(<http://www.rokuoh.co.jp/>)

ブ、マイクロテック・インターナショナルのUSB対応Zipドライブなど、多くの製品が展示されていた。

インターネット関連ソフトも多数展示

ソフトウェアでは、ウィンドウズとマックとのデータ交換を可能にするユーティリティが多数展示されていた。ヤノ電器の「WIN MOUNTER」、ウイニングラン・ソフトウェアの「DAVE」、ディアイティの「PC MACLAN」の3本で、WIN MOUNTERとDAVEはマックにインストールして使用し、PC MACLANはウィンドウズマシンにインストールして使用する。特に「WIN MOUNTER」

インターネット・ニュースの見方

は機能的にはシンプルながら6,800円という低価格が魅力だ。

オープンテクノロジーのブースでは、マック用のインターネットサーバーを展示していた。「WebTen 3.0」は、ApacheをWWWサーバーに、BINDをDNSサーバーに採用したWWWサーバー製品で、米Tenon Inter-systems社の「UNIX仮想マシン」によって動作する。ウェブメールやSSLもサポートしている。

マイクロソフトのブースでは、基調講演で

もデモが行われたインターネットエクスプローラ4.5（以下IE4.5）とアウトLOOKエクスプレス4.5のCD-ROMを配布していた。とくにIE4.5は、マック版だけの機能を盛り込んだ意欲作だ。

このほか、5色のiMacに続けとばかりにいたるところに5色の製品が並んでいて、非常にカラフルな展示が行われていたのが印象的だった。新しいPowerMacintosh G3や5色のiMac、スティーブ・ジョブスの基調講演と話題の多かった展示会ということで、2月18日から20日の3日間で175797人の集客があった。

Interview 米アップルコンピュータのフィリップ・シラー氏に聞く アップルコンピュータの今後の展開

USBやFireWire(IEEE 1394)など新しい技術をいち早く取り入れているアップルコンピュータ。今回は、スティーブ・ジョブズ氏の基調講演にも登場したフィリップ・シラー氏に、今後の製品の展開について話を伺った。

編集部



米アップルコンピュータ
ワールドワイドプロダクトマーケティング
担当副社長 フィリップ・シラー氏

🎤：基調講演でのiMacユーザーの40パーセントがオンラインショッピングをしたことがあるというデータに驚きました。

シラー：iMacユーザーに関するデータを集めていて、これは非常にエキサイティングな状況であると確信しています。以前から思っていたことなんですが、iMacユーザーというのは非常にインターネットに興味を持っている方々だということです。だからインテルのユーザーと比べても、インターネットに接続するパーセンテージは非常に高くなっています。

今日の発表にもありましたように、iMacユーザーの80パーセントの方が、すでにインターネットに接続しているという結果が出ています。このうちの40パーセントの人が、オンラインショッピングをしたことがあるというのです。これまで、こうしたことを簡単にできるような製品を世の中に送り出したかったので、まさに私どもの願いが実現している

といえます。

🎤：iMacにはフロッピーディスクのような外部記録メディアがありません。デジタルカメラなどで使われているメモリーは携帯性にも優れていますし、容量も大きくなってきています。これらのメモリーをiMacなどに搭載するというのはいかがでしょうか？

シラー：メモリーには非常に興味を持っています。ソニーも「メモリースティック」を発表しましたしね。まだこれを言うのは時期が早すぎるかもしれませんが、非常に成功する可能性を持った製品だと思います。ですから、すでに私たちはそのテクノロジーを検討し始めています。ただ、コンピュータマーケットにとってどのような利益につながるのかという点はまだわかっていません。

🎤：アップルは2月17日に、ソニーや松下電

器産業、東芝、コンパック、フィリップスらと、IEEE1394についての特許コンソーシアムを設立すると発表しました。アップルはホームネットワークの分野をどのように考えているのでしょうか？

シラー：FireWireはコンピュータ関係と家電関係の両方の領域にまたがっている、いずれの世界にとってもとても有益なテクノロジーです。そういった意味でも幅広いサポート、しかも、ソニーや松下、東芝といったメジャーなメーカーからのサポートによって、ますます成功する確率が高まるでしょう。

ホームネットワークは非常にエキサイティングな分野です。しかし、残念ながら実際に実現するまで具体的なことはお話しできません。ただ、私たちのハードウェア、ソフトウェア、そして新しいI/Oテクノロジーを使うことによって、非常に使いやすいものになるということは間違いありません。

Interview 米excite COO ジョン・ポランボ氏に聞く

企業買収によって生まれた インターネットビジネスのニューパラダイム

@homeの買収によって、ポータルサイトの中での存在感を一段と強めた米excite。そのCOOジョン・ポランボ氏に、ポータルサイト成功の秘訣と今後を伺った。編集部

☎: exciteの現状はどうか?

ポランボ: この18か月、インターネット関係のすべての賞でexciteはナンバーワンになった。これはコンテンツの質の高さと豊かさ、さらにPFP（パーソナライズフロントページ）でユーザーのリターン率が高まったことによるものだ。現在exciteは2千万人の登録会員を持ち、そのほとんどが週に一度はサイトに訪れている。さらにサイト内の滞在時間は、ほかのポータルサイトに比べて46パーセントも上回っている。

☎: COO就任後に行ったことは?

ポランボ: まず内容の充実を図った。システムそのものの安定性を図り、組織をコン

テンツ&アプリケーション、Eコマース、サーチ&ディレクトリーの3つ、つまり機能ごとのグループに再編成した。さらに国際的な部分に力を入れている。各国でPFPを提供しており、今後さらに伸びるだろう。

☎: exciteは今後ポータルシーンでどう変わっていくか?

ポランボ: 我々は会員制を用いた企業と合併したので、最も強い事業計画を持てるようになった。さらにISPとも提携しているため、低帯域から高帯域までカバーできる。モバイルからパソコン、ケーブルモデムまで、さまざまな形でexcite@homeで提供できる。これはニューデジタルパラダイムを



米excite COO ジョン・ポランボ氏

作ってしまったと言える。つまり、我々がゲームのルールを変えてしまったわけだ。

☎: 合併後の新事業はいつごろから行われる予定か?

ポランボ: この5、6月あたりには、@homeとの具体的なプランをお知らせできるだろう。またビジネスポータルページも、この2~3か月のうちに発表する。ビジネス情報を提供すると同時に、スモールビジネスの事業に役立つ機能やブラウザ上で使えるアプリケーションの提供を予定している。いずれにしても、ユーザーを常に驚かし、楽しませながら進めていくつもりだ。

Society 警察庁と郵政省が内容合意で国会提出へ

不正アクセス対策法の法案が固まる

昨年11月末に警察庁および郵政省からそれぞれネットワークを利用した不正アクセスを防止するための「不正アクセス対策法」の法案が公表された。両省庁ともそれぞれの法案に対してパブリックコメントを受け付け、その結果をまとめて両省庁との間で調整が行われていた。その結果が先ごろ発表された。編集部

3月2日に発表された「不正アクセスの規制等に関する法律案」の骨子では、両省庁が昨年11月に公表した法案をそれぞれ部分的に採用することで合意している。

最も注目されていた不正アクセスの捜査に必要なアクセスログの保存については、警察庁案では一律3か月の保存を義務付けていたが、郵政省案では通信の秘密を侵す恐れがあるため通信事業者の自主判断に任せられていた。

今回の発表では、アクセスログの保存義務は結果的に見送られ、郵政省案が採用された形となっている。また、不正アクセスの対象となるコンピュータの所在につい

ては、警察庁案では事業用のものに限定していたが、郵政省案では個人用のものも含めるとしていた。この点についても、結果的に郵政省案が採用された形となっている。

法の位置付けとしては、郵政省案では電気通信事業法の一部改正による法整備を図る考えであったのに対し、警察庁案では新法として制定する考えであった。これについては合意の結果、警察庁案が採用されている。

このほか骨子には、他人のIDやパスワードを不正に提供する行為の禁止や、コンピュータの設置者などによる不正アクセスの防止について努力規定を設けることが盛り

込まれている。また、国や都道府県の公安委員会によって不正アクセス防止に関する情報を提供したり、そのほか必要な援助を行ったりすることについてもこの骨子には盛り込まれている。なお、罰則の整備については言及されているものの、現時点（3月17日）では詳細は決まっていない。

このように両省庁の意見を部分的に採用している骨子だが、詳細については関係省庁との調整を進め、今期国会（4月以降）に提出される予定である。

なお、不正アクセスとはネットワークを通じて、パスワード保護されたコンピュータに他人のIDやパスワードを不正に使い、そのコンピュータを使用できる状態にする行為としている。現行法では、データの改ざんや業務の妨害を行った場合については罰則規定が設けられていたが、これが立法化されれば、さらに犯罪の前段階の行為も罰せられることになる。

Product NECが
電話機能を強化したTA
エントリーモデルを発売

日本電気は、電話機能を強化したエントリーモデル「AtermIT 40/D」を発売した。ワンタッチで着信転送のできる「でかけるボタン」を搭載。アナログポート2つにDSUを内蔵した廉価製品(27,800円)ほかのTAにはない、白い本体にピンク色を部分的に使ったデザインが特徴。また、Atermシリーズに接続するだけでワイヤレスTA機能を利用できるワイヤレスセンターステーション「AtermWX1(29,800円)も発売した。

URL <http://aterm.cplaza.ne.jp/>



らくらくウィザードで設定可能なAtermIT 40/D

Product 富士通が
SOHO向けのルーター
ラインアップを強化

富士通は、有害ホームページをあらかじめ指定しておけば閲覧できなくなるURLフィルター機能を搭載した家庭向けルーター「NetVehicle-H30(59,800円:写真)と、CATVインターネットを利用して企業のイントラネットを構築できる「NetVehicle-L10(198,000円)を同時発売。NetVehicle-H30はメールの着信を、ランプ表示だけでなくブザー音で知らせる機能も搭載。NetVehicle-L10はxDSLにも対応可能。

URL <http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/Products/telcom/NV/>



ウィンドウズ98やMacにも対応

Product シャープが自社の
情報コンテンツに対応した
小型ザウルスを発売

シャープは、インターネット接続や就職情報、レストラン情報、ニュースなどの情報コンテンツを提供する新ネットワークサービス「シャープスペースタウン」を開始し、これに対応したPDA「ザウルス アイゲッティ MI-P1」を発売した。ザウルスの中で最小・最軽量を実現し、専用アイコンを持つ。ホーム画面は自由に変更でき、ワープロ、表計算、FAX機能などが省かれた以外は通常のザウルスと同等機能。価格は38,000円。

URL <http://www.sharp.co.jp/>



スクロールボタンを採用して操作が簡単

Product PFUが日本初の
Javaを採用した手のひら
サイズコンピュータを開発

PFUは、Javaテクノロジーを採用した手のひらサイズのコンピュータ「Bossa Nova」を開発した。発売に先駆け、これを活用したシステムを企画して開発する人向けに評価キット「BossaNova Evaluation Kit」を発売。BossaNovaは重さが130gで手のひらにすっぽり収まる。片手で操作できるようにスイッチを側面に配置し、12文字×21行表示可能なバックライト付きの15階調モノクロ液晶を採用。価格は190,000円。

URL <http://www.pfu.co.jp/BossaNova/>



評価キットには本体とクレードルが付属

Product カシオが手書きメールの
送受信可能な「文字電話」
対応端末を発売

カシオ計算機は、DDIポケット電話グループの新サービス「文字電話」に対応した専用メール端末「Me-tel PM-C101」を4月下旬に発売する。文字電話サービスは1000文字までの仮名漢字まじりのメッセージや手書きの文字、図形、インターネットメールの送受信ができ、月額基本料980円からと手軽。Me-tel PM-C101はこれに対応した専用端末で、ホワイトとブルーの2モデルがある。価格はオープンブライズ。

URL http://www.casio.co.jp/productnews/pm_c101.html



本体寸法はW103.4×
D67.5×H20.6(mm)

Product マイクロソフトがPalmサイズ
PC/ハンドヘルドPC用の
最新日本語OSを発表

マイクロソフトは、ウィンドウズCEのPalmサイズPC対応ソフト「Microsoft Windows CE for the Palm-size PC 1.2日本語版」と第三世代のハンドヘルドPC対応「Microsoft Windows CE Handheld PC Professional Edition, version 3.0日本語版」をともに2月22日に発表した。PalmサイズPCでは、新たに標準256色のカラー画面に対応し、ユーザーは購入時の選択の幅が広がった。これはカシオ計算機とコンパックコンピュータが対応を表明している。一方のハンドヘルドPCでは、新たにVGA/SVGA画面やUSBに対応したほか、ポケットアウトルックがMAP4とPOP3、LDAPをサポート。日立製作所、富士通、日本電気など7社が対応を表明した。

URL <http://www.microsoft.com/japan/>

Product 日本HPが
ウィンドウズCE 3.0搭載
ハンドヘルドPCを発表

日本ヒューレット・パカードは、マイクロソフトが発表した最新OS「Microsoft Windows CE Handheld PC Professional Edition、version 3.0 日本語版」を搭載した「HP Jornada 820」を発表した。640×480ドットのカラー画面とフルサイズキーボードの90%サイズ「フェザータッチ・キーボード」を採用。標準で約13.5時間、別売りの長時間バッテリーで最大21時間の連続使用ができる。価格は148,000円。

URL <http://ext8.jpn.hp.com/grp1/handheld/>



本体寸法はW246×
D178×H33 (mm)

Product シャープがSVGA対応
8.4型TFT液晶の
ハンドヘルドPCを発売

シャープは、SVGA対応の8.4型TFT液晶を採用し、「Microsoft Windows CE Handheld PC Professional Edition、version 3.0 日本語版」を搭載したハンドヘルドPC「テリオスHC-AJ1」を発売した。シルバーカラーのデザインで、ディスプレイを閉じていても片手で簡単にメールチェックができるワンタッチメール受信ボタンや3ペインのオリジナルメールソフトなどが搭載されている。価格はオープンプライス。

URL <http://www.sharp.co.jp/>



A5ファイルサイズ
の薄型・軽量ボディ

Product コニカが
211万画素CCD搭載
デジタルカメラを発表

コニカは、高性能ヘキサノンレンズと211万画素原色フィルターCCDを搭載した「コニカデジタルスチルカメラQ-M200」を4月下旬に発売する。シャッター動作のタイムラグを小さくするため、赤外線アクティブオートフォーカスとCCD像面オートフォーカスを併用し、さらにファインダーに眼を近づけると自動的に側光をスタートするアイスタート機能を採用した。スライド式レンズカバー装備。価格は89,800円。

URL <http://www.konica.co.jp/q-m200/>



本体寸法はW121.8×D41.8×H71.6 (mm)

Product 東芝が
214万画素CCD搭載の
デジタルカメラを発表

東芝は、クラス最高水準の214万画素CCDを搭載した「AllegrettoM4」を5月末に発売する。従来機で課題だったレスポンス時間は、起動時2秒、撮影間隔1秒強と高速化を実現。1秒間に約4コマ撮影できる高速連写機能(1600×1200時)や16画面マルチ連写機能も搭載。パソコンとの接続はシリアルインターフェイスのほかUSBにも対応と、画像転送がより高速で簡単になった。画像ファイルはDCFに準拠。価格は89,800円。

URL http://www2.toshiba.co.jp/d_came/



本体寸法はW112×D42×H68 (mm)

Product 3Comが
USB対応イーサネット
アダプターを発売

スリーコム ジャパンは、パソコンのUSBポートにジャックを差し込むだけで簡単にネットワークに接続できるイーサネットアダプター「3Com USB Network Interface」を3月4日に発売した。パソコン本体を開けてネットワークボードを挿入しなくても、USBコネクタに接続すれば、10BASE-Tに変換してネットワークに接続できる。電源はパソコンのUSBポートから供給されるため、配線周りはすっきり。価格は12,750円。

URL <http://www.3com.co.jp/releases/99/030599.html>



本体寸法はW68×D55×H25 (mm)

Product APCがUPSの新製品を
NECのPCサーバー
周辺機器として発売

米APCの日本法人エーピーシー・ジャパンは、無停電電源装置(UPS)の新製品Smart-UPSシリーズ「NEC 500J」が日本電気のPCサーバーの周辺機器として販売が開始されたことを発表した。NEC 500JはNECのPCサーバー「Express5800シリーズ」のエントリーサーバー「110Eb」、「110La」、「120Lb」用のバックアップ電源ソリューションで、オプションとして販売される。価格は65,000円。

URL http://www.apc.co.jp/news/news_990223.html



NECにOEM提供されたNEC 500J

Product

ベイ・ネットワークスが SOHO向けのギガビット 対応製品を発売

ベイ・ネットワークスは、ネットワーク製品ブランド「NETGEARファミリー」にギガビット対応のスイッチやギガビットカードを追加して発売した。10/100Mbpsスイッチ製品の低価格化により、SOHOクラスのユーザーでもハブからスイッチへの切り替えが徐々に進んでいる。また、クライアントPCもすでに100Mbps接続に対応した環境が用意されている。この背景から、SOHOユーザーをターゲットにしてギガビットスイッチ「FS509」(238,000円)とギガビットカード「GA620」(79,800円)を発売した。FS509は10/100Mbps用RJ-45スイッチポートが8ポートと1Gbpsファイバーポート(SCコネクタ)を1ポート搭載している。

URL <http://netgear.baynetworks.co.jp/>

Product

オースペックスが ワークグループ向け ファイルサーバーを発売

ネットワークサーバー製品を提供するオースペックスは、日本国内向けにワークグループ用ファイルサーバー新製品「4Front ASシリーズ」を発売した。Auspex 4Front AS100/AS200は設定や管理がしやすいオールインワンタイプで、オースペックスの技術を初めてエントリークラスのワークグループや部署向けに提供する。AS100は10から20、AS200は200ユーザーまでで、ウィンドウズとUNIXの両方の環境に対応している。

URL <http://www.auspex.co.jp/>



記憶装置容量の拡張が簡単なサーバー製品

Product

オーディオテクニカが 雷サージバスター内蔵 一発連動タップを発売

オーディオテクニカは、パソコン本体電源スイッチだけで周辺機器の電源もコントロールできる一発連動タップの新製品「ATC-SB30R」を発売した。バリスター素子とアレスター素子を組み合わせたダブルブロック回路のサージバスターを内蔵しているため、コンセントに接続した機器を電源線や電話線を通じて侵入する誘導雷から守る。ケーブル長は2.5mで、デスクトップパソコン専用。価格は8,500円。

URL <http://www.audio-technica.co.jp/>



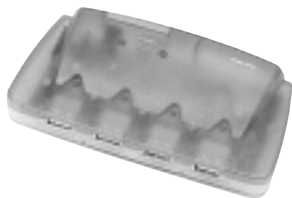
2極コンセント口を全部で7つ搭載

Product

サンワサプライが 5色iMacに対応した 周辺機器を発売

サンワサプライは、5色のiMacに適した周辺機器、マウスやCCDカメラ、OAタップなどを発売する。なかでもiMacの5色に合わせて展開するのは、2極3個口の電源タップ「TAP-2008シリーズ」(900円)、USBハブ「USB-HUB05シリーズ」(11,500円)、長いケーブルを巻き取って使いやすくする巻き取りホルダー「FUN-087シリーズ」(780円)、CRTフィルター「CRT-15」(8,800円)。今後も順次対応製品が発売される。

URL http://www.sanwa.co.jp/index_f.html



iMacと同じ5色で発売したUSBハブ

Product

シャープがMPEG-4準拠 の動画が撮影できる 新ビデオカムを発売

シャープは、1/4型35万画素プログレッシブスキャンCCDを搭載し、動画圧縮の最新技術「MPEG-4」に準拠した小型デジタルムービー「インターネットビデオカム」を4月19日に発売する。MPEG-4技術により、64Kbpsの動画撮影で、32Mバイトのスマートメディアに約60分記録可能。動画はマイクロソフトが提唱するASFファイル形式で、パソコンでの再生にはウィンドウズメディアプレーヤーを使用する。価格は60,000円。

URL <http://www.sharp.co.jp/>



本体寸法はW78.8×D42×H88(mm)

Product

デービーソフトが ホームページ作成 統合パッケージを発売

デービーソフトは、ホームページ作成統合パッケージ「HOTALL2001」を4月16日に発売する。HTMLタグを知らなくてもワープロ感覚のWYSIWYG形式で編集できる「HOTALL Ver.6」、テンプレートで簡単にホームページを作れる「ホームページギャラリー」、フォルダー内のBMP/GIF/JPEG形式のイメージファイルを一覧表示する「イメージパレットVer.2.0」、GIF形式のイメージデータを約3000点収録した「素材集」、タイトルやボタンなどのロゴを作成できる「ロゴファクトリー」、アニメーション作成の「アニメーションファクトリーVer.2.0」、ウェブサイトの管理が容易な「ハイパーテキストマネージャVer.2.0」で構成。価格は14,800円でウィンドウズ95/98/NT4.0用。

URL <http://www.db-soft.co.jp/>

Product アイフォーが携帯電話や
PHSにメールを
転送するソフトを発売

アイフォー(旧アスキーサムシンググッド)は、届いた電子メールを自動的に携帯電話やPHS、ポケットベルに転送するソフト「携帯メールエージェント」を3月19日に発売した。転送先のメールアドレスを3つまで登録できるほか、レイアウト変換機能で受信する携帯電話の文字数制限に合わせて本文を見やすく修正する。添付ファイルを省いた転送もできるため、iモード端末への転送にも利用可能。価格は4,800円。

URL <http://www.ifour.co.jp/>



Windows95/98/NT4.0用

Product レーザー5がredhat
Linux日本語版を
機能強化して発売

レーザー5は、米Red Hat Softwareの開発した「redhat Linux 5.2 日本語版」を機能を強化して3月19日に発売した。サーバー版や英語翻訳ソフト「eWnn」, エクセルワード互換の「StarOffice 5.0 英語版」を同梱し、ユーザーサポートの強化、プレインストールソフトのサポートなど付加部分が充実した。価格は10,800円。これとは別に、サポートや同梱ソフトのないインストールキットが全国書店などで4,200円で発売される。

URL <http://www.cdrom.co.jp/>



3か月のサポート権が付いた製品版

Product 富士マグネディスクが
LINUX対応のグループ
ウェアソフトを発売

富士マグネディスクは、イントラネット用のグループウェアソフト「イントラネット for Linux Standard版」を発売した。データベース構築ツールの開発に実績のあるギデオンとの共同開発で、急速に普及が進むLINUXに対応している。WWWブラウザで操作できるため簡単に利用できるうえ、別途クライアント個々のパソコンに専用のソフトをインストールする必要がない。価格は59,800円(1サーバー1ライセンス)。

URL <http://www.fujifilm.co.jp/fmd/lintra.html>



クライアント数は無制限に設定できる

Product ネットワークアソシエイツが
企業向けの
ウイルス対策ソフトを発売

ネットワークアソシエイツは、企業向けウイルス対策ソフトのクライアントマシン向け製品「VirusScan Enterprise Edition Ver. 4.02 日本語版」(10ノード98,000円~)およびネットワークサーバー向け製品「Net Shield Ver.4.02 日本語版」(10ノード122,000円~)を発売した。メールスキャン機能、ダウンロードスキャン機能、悪質なActiveXとJavaアプレットを除去するフィルター機能などを追加した。

URL <http://www.nai.com/japan/>



VirusScanのコンソールとVshield設定画面

Product マイクロソフトが
インタラクティブ
英会話ソフトを発売

マイクロソフトは、新しいタイプの英会話ソフト「Microsoft Encarta インタラクティブ英会話 日本語版」を4月上旬に発売する。音声認識機能の採用で、画面上の3D空間を歩き回り、登場人物との会話をリアルに体験して学習できるほか、学習スケジュールを希望に合わせて自動生成できる。また、情報交換の場としてオンラインチャット専用のウェブサイトも用意される。Windows95/98/NT4.0用で、価格は12,800円。

URL <http://www.microsoft.com/japan/products/>

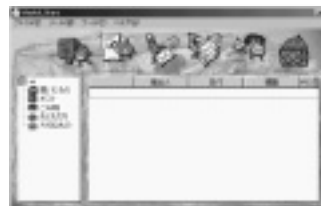


3Dバーチャルチャレンジの画面

Product IDOがキャラクター
育成や占星術を楽しめる
メールソフトを発売

日本移动通信(IDO)は、野菜キャラクターが画面に登場してメールの着信を知らせるエンターテインメントメールソフト「ベジタルうらら」を発売した。メールが届くとキャラクターが画面を動き回り、メールのやりとり回数が増えるとキャラクターが成長する。また、占い師「ステラ薫子」による占星術も楽しめる。次世代メールサーバープロトコル「IMAP4」に対応。Windows95/98用で、価格は2,800円。

URL <http://www.ido.co.jp/>



IDOプラザやホームページで販売

Service 東京都選挙管理委員会が 4月11日の都知事選挙 速報ページを開設

東京都選挙管理委員会は、4月11日に行われる都知事選挙と都議会議員補欠選挙の開票速報ページを開設した。気になる投票率(推定)を9時から1時間置きに掲載し、12時、15時、18時には中間投票状況と投票結果を掲載する。また、投票後、22時から1時間置きに、都議会議員補欠選挙も合わせて、中間開票状況と開票結果を掲載する。テレビだけでなく、インターネットでも選挙結果がわかるようになった。

URL <http://www.senkyo.metro.tokyo.jp/>



©1999 東京都選挙管理委員会事務局

Technology AT&Tほか3社が 音声ブラウズができる VXMLを提案

AT&T、ルーセント・テクノロジー、モトローラの3社は、音声でウェブブラウズができる「Voice eXtensible Markup Language」(VXML)を発表し、標準化を目指してVXML Forumを設立した。AT&Tとルーセント・テクノロジーが策定した「Phone Markup Languages」(PML)とモトローラが策定した「VoxML」とをベースにしたマークアップ言語のVXMLを使ってウェブページを作ると、電話を利用して発した音声によるウェブのブラウズができるようになる。当初考えられるのは、ウェブ上のニュースや天気予報などを電話を使って聞き出すといったサービス。VXML Forumでは4月中にドラフトを公開、本年中に仕様を固める予定だ。

URL <http://www.vxmlforum.org/>

Service DDIとIDOが cdmaOneサービスの 全国展開を開始

DDI系セルラー8社と日本移动通信(IDO)は携帯電話サービス「cdmaOne」を4月14日から共同で、全国展開する。符号分割多元接続方式(CDMA)の採用により、電波の利用効率が高く混線も生じにくいと、音質がよいとされている。また、国際ローミングで、米国などでも利用可能。料金は関東圏のIDOの場合で月額基本料4,500円、通話料は1分40円から。利用には専用端末が必要(39,800円程度)。通信速度は現在14.4Kbpsで将来28.8Kbpsを予定。同時に、携帯電話でインターネットが利用できる「WAP対応サービス」も開始する。ニュース、映画館混雑状況などの専用コンテンツやインターネットメール、PIM機能が利用できる。

URL <http://www.ddi.co.jp/cellular/>

Technology 家庭向けインターネット サービスの標準仕様策定を 目指す15社が提携

コンピュータや携帯通信機器関連の15社は、Javaテクノロジーをベースとした「オープン・サービス・ゲートウェイ(OSG)仕様」を策定し、その発展を目指して提携したことを発表した。今回の提携は家庭や職場で利用しているさまざまな情報機器をインターネットに接続させるための、オープンなインターフェイスを策定しようというもの。提携企業はBM、モトローラ、オラクル、東芝など。OSG仕様はプロバイダーや機器メーカーなどが家庭やオフィスのゲートウェイサーバー向けにインターネットサービスや接続機器を開発する共通指標の意味があるほか、ホームセキュリティやECなどの家庭向けサービスのために低コストで安全な接続を実現させる。

URL <http://www.osgi.org/> (OSG規格)

Technology NTTドコモが iモード対応カーナビ用 コンテンツの実験開始

NTT移动通信網は、iモードサービスに対応したWWWブラウザを搭載したカーナビを利用し、技術仕様やカーナビに適したコンテンツなどを調査する実証実験を開始した。この実験の副産物として、iモードで取り込んだ文字情報のカーナビ画面への表示、取り込んだ情報を位置情報付きのカーナビの地図上に表示しての経路の案内、カーナビ画面を使ったモードサービスの各種の取引(モバイルバンキングなど)の実行、メールの送受信などがある。実験では、iモード対応カーナビには実験用携帯電話機が接続され、実験用位置情報付きホームページやiモード用コンテンツ、一般のウェブサイト閲覧などが行われる。実験期間はおか月程度。

URL <http://www.nttdocomo.co.jp/new/contents/98/whatnew107.html>

Technology ソニーがインターネット での音楽配信に関する 著作権保護技術を開発

ソニーは、インターネットでの音楽配信を普及させるため、音楽の著作権保護技術を開発し、音楽ソフト業界などの関連団体にこの技術を提案すると発表した。この技術は音楽ソフトを暗号化して、再生機器に認証を行うシステムを埋め込むもの。このため、特定の機器でしかその音楽を楽しめないようにしている。曲の配信の際に、利用条件を指定して配信したり、あとからその利用条件を変更したりできるようにする。ユーザーの所持する録音再生機側に利用履歴を残して、再度ホームページにアクセスしたときに課金をするような仕組みも考えているという。なお、この保存形式はソニーのメモリースティックでも採用する予定。

URL <http://www.sony.co.jp/soj/CorporateInfo/News/199902/99-028/>

Technology 郵政省のギガビットネットワーク実験に170の大学や企業が参加

郵政省は、光ファイバーを利用した次世代の超高速通信網「ギガビットネットワーク」実験を4月に開始する。この実験には、東京大学や日立製作所などの約170の大学や民間企業が参加。通常は研究機関での実験のみの場合が多いが、この参加数は高速通信技術への関心の高さを示し、最終的には約800団体の参加を望んでいる。超高速通信網実験のために、郵政省は全国に1ギガビットクラスの通信網を張り巡らせ、東京都内や茨城県つくば市などの45か所にアクセスポイントを設置した。実験は4月開始だが、利用はあくまで研究目的で、その内容は画像転送を使った遠隔治療、教育、ネットワークを使った音楽や映像ソフトのデータ販売を想定した電子認証実験など。

URL <http://www.mpt.go.jp/>

Strategy NTTが平成11年度事業計画を郵政省に認可申請

日本電信電話は2月26日、平成11年度の事業計画について、郵政省に認可申請を行った。収支計画の概要は、売り上げは6兆1,160億円で2.9パーセントの減収、経常利益は2,160億円で26.3パーセントの減益と、加入電話の大幅減から厳しい内容になっている。ただしSDNなどデータ系の収益では40パーセント以上の増収を見込み、それとともに光ファイバー系の設備投資も昨年より9パーセント伸びている。このため、光ファイバーの全国カバー率は、平成10年度末予想の27パーセントから9ポイント上がり、平成11年度末で36パーセントを見込んでいる。今後はデータ系の収益がますます増えるとNTTでは予想している。

URL <http://info.ntt.co.jp/news/backno/199902.html>

Technology 郵政省がKDDなど4社に加入者系の無線局予備免許を認可

郵政省関東電気通信監理局は、BTコミュニケーションズ・サービス、日本テレコム、KDD、KDDウインスターの4社に22GHz帯、26GHz帯、38GHz帯の周波数を利用する「加入者無線アクセスシステム」(FWA: Fixed Wireless Access)の無線局予備免許を2月26日に認可した。FWAは基地局から対向する単一のユーザーに無線でアクセスして56Mbpsの回線を提供する対向(P-P)方式と、基地局から複数のユーザー向けに無線でアクセスして最大6Mbpsの回線を提供する一对多方向(P-MP)方式で構成。このため、ほかの第一種電気通信事業者の回線を利用する必要がなく、プロバイダーや大容量データ通信を扱う企業向けに低価格で高品質な回線サービスを提供できる。

URL <http://www.mpt.go.jp/>

Company パーテックスリンクがセキュリティーソフト販売で米企業と代理店契約締結

パーテックスリンクは、米セキュア・コンピュータリングと、同社が販売するセキュリティーソフト2製品「Secure Computing Firewall for NT」と「Secure Wire」に関し、総代理店契約を締結したと発表した。パーテックスリンクでは、これまでセキュア・コンピュータリングのサーバー用URLフィルタリングソフト「SmartFilter日本語版」を総代理店として販売してきた。今回の代理店契約により、URLフィルタリング、ファイアウォール、ウェブアクセスコントロールなどといったインターネット関連のセキュリティー製品分野で、日本市場の販売チャンネルの開発やマーケティングなどに力を注ぎ、さらなる市場の育成と事業の拡大を目指す。

URL <http://www.vertexlink.co.jp/>

Education 文部省が高校必修科目に「情報」を新設した新学習指導要領案を発表

文部省は、高校などでの新しい学習指導要領案を3月1日に公表した。これは2002年度から導入される、完全学校週5日制に合わせたもの。ゆとりのある教育現場を実現するため、授業時間を過当たり2時間、さらに卒業に必要な単位数を現行の80から74に減らし、必修教科も複数科目から選択履修できるようになっている。また、必修科目として、普通教科に授業の半分以上をインターネットなどの実習にあて、情報の収集や発信をする「情報A」、コンピュータの機能や活用法を理解し、プログラムなどを用いて問題を解決する「情報B」、インターネットなどの情報通信ネットワークの役割や影響を理解する「情報C」に分類。情報化社会に対応した学習指導要領になっている。

URL <http://www.monbu.go.jp/series/>

Company ジオシティーズがリアルネットワークストリーミング利用で提携

ジオシティーズは、同社のサービスを利用するユーザーがストリーミングコンテンツを利用できるように、リアルネットワークストリーミングと3月1日に提携した。RealSystem G2のRealServerをジオシティーズがインストールし、ユーザーには、無料の試用期間が設けられて自由に使えるようにする。これにより、ユーザーは自分のウェブサイトでもマルチメディアコンテンツをストリーム配信できるようになる。さらに、RealAudioとRealVideoを作成できるツール「Real Producer G2」も無料で提供する予定になっている。リアルネットワークストリーミングとの提携により、小規模オフィスや個人ユーザーでも簡単に音声やビデオをウェブサイトに加えられるようになる。価格は未定。

URL <http://www.geocities.com/>

Event イベントカレンダー(1999年4月~7月)

カレンダーの日程はあくまでも予定です。お出
かけの際は、問い合わせ先へお確かめください。

国内

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
4月14日	4月16日	DISKCON JAPAN '99 URL http://www.mesago-jp.com/diskon/jpn/	ハードディスクやMO、CD-ROM、DVDなどのドライブやその材料、部品、製造装置、メディアの展示会。INFORMATION STORAGE JAPAN 1999併催。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 MESAGOジャパン / シー・エヌ・ティ 関 MESAGOジャパン Tel. 03-3359-0894
4月20日	4月21日	CiscoWave+Networkers '99 URL http://www.cisco.com/jp/	「Empowering the Internet Generation.」をテーマにした日本シスコシステムズのプライベートショー。	新高輪プリンスホテル 国際館パミール 東京都港区高輪3-13-1	主 日本シスコシステムズ 関 CiscoWave + Networkers'99事務局 Tel. 03-5375-2423 Fax. 03-5248-3824
4月22日	4月25日	東京国際ブックフェア '99 URL http://www.jbpa.or.jp/tibf/index.htm	国内外から約500の出版社が集結するアジア最大規模の本の見本市。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 東京国際ブックフェア実行委員会 関 東京国際ブックフェア事務局 (リードエグジビジョンジャパン内) Tel. 03-3349-8502
5月1日	5月3日	ネットワークジャングル 「デジタルランド」 URL http://www.networkjungle2.com/wdw/	インターネットなどを利用した電子情報社会に関する情報を伝える衛星放送スペシャル番組「Network Jungle」が開催する、デジタルコミュニケーションスペース、デジタル関連機器のイベント。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 ネットワークジャングル 実行委員会 関 ネットワークジャングル 事務局 ☎ jungle@nep21.nhk-grp.co.jp
5月18日	5月21日	ビジネスシヨウ '99 TOKYO URL http://www.noma-businessshow.or.jp/	アジア最大の事務・情報・通信に関する展示会。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 (社)日本経営協会、東京商工会議所 関 (社)日本経営協会 ビジネスシヨウ事務局 Tel. 03-3403-8910
5月31日	6月4日	NetWorld + Interop 99 Tokyo URL http://www.sbfforums.co.jp/interop99/	最新ネットワーク技術やアプリケーションに関する展示会、カンファレンス。展示会場全体が相互接続された日本唯一のトレードショー。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 NetWorld + Interop 99 Tokyo 実行委員会 関 ソフトバンクフォーラム Tel. 03-5642-8433 Fax. 03-5641-4617
6月9日	6月11日	ビジネスシヨウ '99 OSAKA URL http://www.noma-businessshow.or.jp/osaka/	ビジネスにおける事務・情報・通信に関する機器やシステム、サービスなどの展示会。	インテックス大阪(大阪国際見本市会場) 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102	主 (社)日本経営協会、大阪商工会議所 関 (社)日本経営協会 関西本部 Tel. 06-6443-6093 Fax. 06-6441-4319
6月16日	6月18日	第7回 産業用バーチャルリアリティ展 URL http://www.reedexpo.co.jp/ivr/	あらゆる産業分野向けのバーチャルリアリティに関するハードウェア、ソフトウェア、技術、サービスを一堂に集めた高談型展示会。	東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 リードエグジビジョン ジャパン 関 リードエグジビジョン ジャパン 産業用バーチャルリアリティ展事務局 Tel. 03-3349-8501 Fax. 03-3345-7929
6月30日	7月3日	WINDOWS WORLD Expo/Tokyo 99 URL http://www.idgexpo.com/wwe/	ウィンドウズ用のハードウェア、ソフトウェア製品の展示会とカンファレンス。Computer Telephony World Expo/Tokyo '99併催。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 IDCワールドエキスポジャパン、IDGコミュニケーションズ、朝日新聞社、テレビ朝日 関 WINDOWS WORLD Expo/Tokyo 99統括事務局 Tel. 03-5276-3751 Fax. 03-5276-3752

海外

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
4月6日	4月7日	Jupiter Shopping Forum URL http://www.jup.com/events/forums/shopping/	インターネットでのオンラインショッピングに関するフォーラム。	Miami, FL, USA	関 Jupiter Communications Tel. +1-212-780-6060 Fax. +1-212-780-6075
4月12日	4月16日	Spring Internet World '99 URL http://events.internet.com/spring99/	インターネットに関する最新技術の展示会とカンファレンス。	Los Angeles Convention Center Los Angeles, CA, USA	関 internet.com Tel. +1-203-226-6967 Fax. +1-203-454-5840
4月19日	4月22日	COMDEX/Spring and WINDOWS WORLD '99 URL http://www.comdex.com/	インターネット技術やウィンドウズ関連のハードウェア、ソフトウェアに関する展示会とカンファレンス。	McCormick Place Chicago, IL, USA	関 ZD Events Tel. +1-781-433-1500 Fax. +1-781-444-3322
4月20日	4月23日	MOBILE & PDA EXPO '99 URL http://www.pda-expo.com/	モバイルコンピューティング全般に関する展示会。	Chicago Sheraton Hotel & Towers Chicago, IL, USA	関 World Market Strategies, Ltd. PDA Inc. Tel. +1-415-641-2450 Fax. +1-415-641-2455
4月27日	4月29日	Internet and Electronic Commerce Conference & Exposition URL http://www.iec-expo.com/	インターネット上での電子商取引に関する展示会とカンファレンス。	Javits Convention Center New York, NY, USA	関 Advanstar Communications Tel. +1-800-331-5706
5月10日	5月14日	EXPO COMM USA 99/ Network+Interop URL http://www.ejkrause.com/cal-date.htm	ネットワーク技術やアプリケーションの総合展示会。	Las Vegas Convention Center Las Vegas, NV, USA	関 E.J. Krause & Associates, Inc. Tel. +1-301-493-5500 Fax. +1-301-493-5705
5月12日	5月15日	Electronic Entertainment Expo(E3) URL http://www.e3expo.com/	世界最大のコンピュータ&ゲーム機などのエンターテインメントに関する展示会とカンファレンス。	Los Angeles Convention Center Los Angeles, CA, USA	関 Electronic Entertainment Expo Tel. +1-800-315-1133 Fax. +1-781-440-0362
5月25日	5月28日	EXPO COMM WIRELESS KOREA 99 URL http://www.ejkrause.com/expocomm/asia/	モバイルコンピューティングや携帯電話などに関する展示会とカンファレンス。	Korea Exhibition Center Seoul, Korea	関 E.J. Krause & Associates, Korea K.Fairs Ltd. Tel. +82-02-555-7153 Fax. +82-02-556-9474
6月8日	6月10日	eBusiness Conference & Expo URL http://www.kingbird.com/ebusiness/	インターネット上での電子商取引に関する展示会とカンファレンス。	San Jose Convention Center San Jose, CA, USA	関 KINGBIRD Media Group Tel. +1-800-652-2578



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp